

ごあいさつ

三井住友建設技術研究開発報告第 15 号の発刊に当たり、ご挨拶申し上げます。

昨年度より始まった第 5 期科学技術基本計画やこれに連携する形で SIP（戦略的イノベーション創造プログラム）が推進され、科学技術と人材育成の両面でイノベーションが進められようとしています。建設産業においても、国交省が進める i-Construction に代表されるように、ICT を活用した生産性向上技術の開発が推進され、人材不足の解消や魅力ある建設産業への変貌が期待されています。一方で、熊本地震での被害も記憶に新しい中、昨年 8 月には岩手県を中心に大きな被害を出した台風 10 号、さらに本年 7 月には九州北部豪雨による地盤災害が発生するなど、安心安全な社会づくりや国土強靱化に対する期待もますます高まっています。

弊社では、2016 年度より三カ年計画ではじまった第 5 次中期経営計画において、「生産システムの改革」と「人材の確保・育成」をフォーカステーマとして掲げており、技術開発部門においても、これらへの貢献が期待されています。このような背景から、技術開発テーマについては、ICT 活用など施工や管理の生産性向上技術および品質向上技術、さらにはサステナブルな社会の構築に貢献するための環境配慮技術、防災関連技術などに重点が置かれてきています。

本号では、「プレキャスト床板継手の開発」、「異種強度コンクリートを用いた耐震壁」など生産性向上技術、「液状化による地盤変状抑制のための杭式改良」や「地盤防災観測網の構築と斜面安定評価法」などの地盤防災関連技術、「ICT を活用した新しい橋梁維持管理手法」などの ICT 活用技術、「超高強度コンクリート」や「水上太陽光発電用フロート」など環境・エネルギー関連技術など合計 14 編の論文を掲載しています。

弊社では、昨年 12 月に丹下健三氏の代表作であるメタボリズムの象徴建築「山梨文化会館」の免震レトロフィット工事を竣工させ、技術開発の成果が形となって表れた年として記憶に刻まれました。これを励みとして今後も技術開発に精進してまいり所存ですので、皆様におかれましては、この技術研究開発報告をご高覧いただき、ご指導・ご助言を賜りますとともに、ご活用いただければ幸甚です。

2017 年 10 月

技術研究所長
谷垣 正治